

## クリ新品種「ぼろたん」の特性

[要約] クリ新品種「ぼろたん」は、国見と同時期の9月中旬に収穫できる早生品種であり、樹姿は開張性である。「ぼろたん」はチュウゴククリ並に渋皮剥皮性が良いニホングリである。

茨城県農業総合センター園芸研究所

成果区分

普及（情報）

### 1. 背景・ねらい

本県のクリ栽培は中生の「筑波」を中心に品種が構成されているが、早生品種への品種更新が進んでいる。また、ニホングリは一般にチュウゴククリに比べ大果であるが渋皮剥皮性が劣るため、剥皮性が良く大果なクリ品種の育成への期待がある。

そこで、農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所において育成されたクリ新品種「ぼろたん」の特性について検討した。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 新品種「ぼろたん」は、農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所において早生系統「550-40」（「290-5」（「森早生」×「改良豊多摩」）×「国見」）に「丹沢」を交雑して育成された品種である(図1)。
- 2) 樹勢は中で、開花期は「丹沢」「国見」と同程度、収穫期は「丹沢」より1週間～10日程度遅く、「国見」と同程度もしくは5日程度遅い(表1)。外観は国見に似て、肉質はやや粉質、甘み、香気とも中である。また、双子果率は「丹沢」と同程度で裂果率は「丹沢」より少ない(表2)。
- 3) 「ぼろたん」の最も大きな特徴は、チュウゴククリと同程度の渋皮剥皮性を有していることであり、電子レンジ等を使用して加熱することで、簡単に渋皮ごと剥皮が可能である(図2)。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 外観が国見に似ているので、国見との混植は避ける。
- 2) 樹勢は中であり、開張性であるので、剪定は低樹高栽培による強い切り返し剪定が可能である。
- 3) 渋皮剥皮性が高く、今後焼き栗などへの加工が期待される。
- 4) 苗木の供給に関しては平成19年秋より、農家向けに苗木業者からの販売が始まる。
- 5) 茹でクリにした場合は、電子レンジで加熱した場合に比べ渋皮剥皮性が多少劣る。

4. 具体的データ

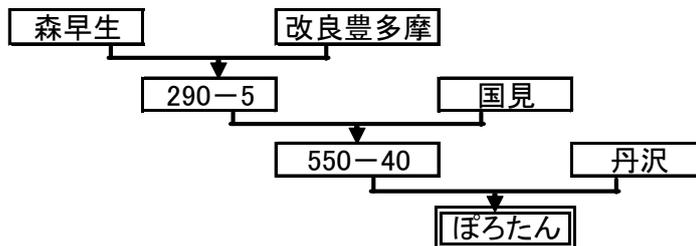


図1. 「ぼろたん」の育成経過



図2. 電子レンジで剥皮した「ぼろたん」

注) 鬼皮にナイフ等で果肉まで達する程度の傷を数本付けた後、電子レンジ(700W)で2分間加熱

表1 「ぼろたん」の栽培特性(H16~17年:樹齢5~6年生)

品種名	樹姿	樹勢	展葉期 (月/日)	雄花の開花期(月/日)			雌花の開花期(月/日)			収穫期(月/日)		
				始	満開	落花	始	満開	始	盛	終	
ぼろたん	開	中	4/18	6/12	6/16	6/24	6/8	6/15	9/13	9/19	9/22	
丹沢	やや開	中	4/21	6/13	6/18	6/26	6/8	6/15	9/7	9/8	9/15	
国見	やや開	中	4/21	6/11	6/15	6/24	6/6	6/13	9/12	9/15	9/22	

表2 「ぼろたん」の果実特性(H16~17年:樹齢5~6年生)

品種名	収量 (kg/樹)	収穫果数 (個)	1果平均 重(g)	比重	双子 果率(%)	裂果 率(%)	腐敗 果率(%)	虫害 果率(%)	食味		
									肉質	甘味	香気
ぼろたん	5.4	209.0	26.3	1.072	16.0	0.3	5.1	4.7	やや粉	中	中
丹沢	3.9	177.0	22.3	1.063	14.0	10.1	4.7	18.0	やや粉	中	中
国見	5.0	189.7	26.8	1.042	0.0	1.0	11.8	13.6	やや粘	少	少

※H18年はクリイガアブラムシの発生により収穫不可

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

果樹推奨品種決定と生態収量予測(クリ第6回系統適応性検定試験)・平成13年度～・果樹研究室